

■第37回都市対抗野球大会開会式において『100年を超えた伝統チーム』として特別表彰を受ける様子(平成27年7月18日)

SEIKO  
BSO  
読売新聞

特別表彰

JR北海道 石巻日和倶楽部  
桂倶楽部 新潟コンマーシャル倶楽部



大正4(1915)年創部  
全国2番目の歴史と伝統

# 桂倶楽部 100年



■桂倶楽部90周年記念大会(楽山球場) 『対茨城ゴールデンゴールズ』

本市に本拠地を置く硬式野球チーム「桂倶楽部」は、本年100周年を迎えました。

桂倶楽部の創始者「奥源禄」の「野球で培われた健全な精神こそ郷土発展につながる最善の道」を部訓として、地域に根差した活動を続けてきました。

最終回となる今回は、桂倶楽部の平成をご紹介し、桂倶楽部100年のあゆみを締めくくります。

【平成の桂倶楽部】

平成2年に地区連盟の再編があり、山梨県は、中部地区連盟から関東地区連盟に所属変更になりました。

関東移動のこの年、山梨県代表として第61回都市対抗野球南関東大会に出場し、同大会で優勝経験のある強豪「日本通運浦和」に敗退しましたが、創部70年の「桂倶楽部」の伝統を関東地区連盟に示すことができた年でした。

この間の「桂倶楽部」飛躍の原動力は、主将「柏木正男」の存在でした。チーム力向上のため最善の努力を積み重ね、結果を残してきました。彼は、桂倶楽部80周年に全国一の伝統を持つ「函館大洋倶楽部」を招き、「桂倶楽部」との記念試合を夢見ていましたが、平成5年、突然の事故によりこの世を去ることとなってしまいました。(享年36才)

そんな彼の意思を引き継ぎ、平成7年8月19日、「桂倶楽部創部80周年記念試合」が楽山球場において開催されました。地元開催に緊張したのかエラーも絡み、「函館大洋倶楽部」に8点を先制されました。

た。3回に小俣勇二の本塁打などで反撃しましたが函館優位のまま、回は進んでいきました。9回表、「函館大洋倶楽部」の攻撃中のことでした。にわかには球場上空に暗雲が広がり、大粒の雹が楽山球場に降り注ぎました。まるで「柏木正男の檄」のような降雹でした。野球の試合には、珍しい降雹コールドゲームで記念試合の幕を閉じました。

この頃から社会人野球の流れが変わってきました。経済環境の悪化に起因して企業チームの解散・休部が相次ぎ、昭和38年に237チーム登録されていた企業チームが平成17年には83チームと激減し、企業力に頼ってきた社会人野球界の変革の時期でした。反面、クラブチームは、76チームから251チームと増加してきました。

その中でも秋本欽一氏の「茨城ゴールデンゴールズ」などの話題性のあるチームが結成されたことにより、社会人野球が新しい視点で注目されてきました。「茨城ゴールデンゴールズ」は、結成1年目にして第30回全日本クラブ野球選手権大会に出場し、既に全国レベルのチームでした。

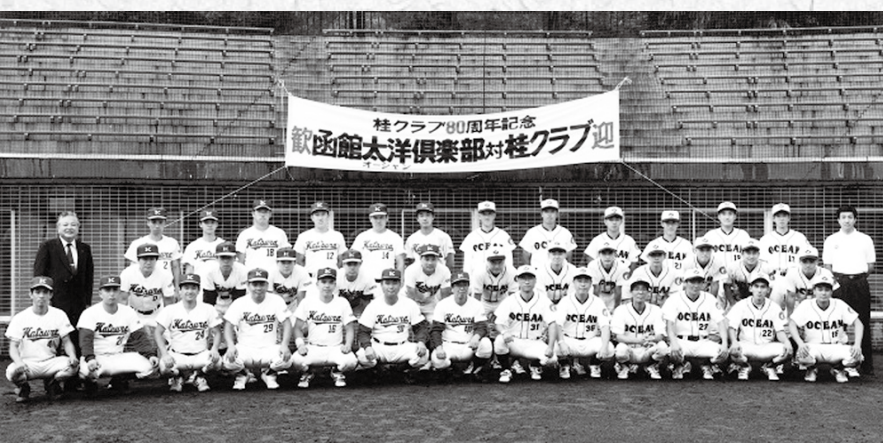
平成17年に「桂倶楽部」は、創部90周年を迎えました。この記念すべき年に最も話題性のある「茨城ゴールデンゴールズ」を楽山球場に迎え、桂倶楽部創部90周年記念試合が盛大に開催されました。当日の球場は、市内外から集まった3,300人の大観衆に埋め尽くされました。

「茨城ゴールデンゴールズ」カルロス、「桂倶楽部」竹村浩司の先発で始まった試合は、1対12で敗れましたが桂

倶楽部90周年全国二番目の伝統を広く伝えることができたとおもいます。

「桂倶楽部」は創部以来、地域のために活動を続けてきました。桂倶楽部の部員の多くは、都留市野球連盟の役員・審判員を務め、地域の野球チームの中心選手としてあるいは、少年野球チームの指導者として野球を通じた地域振興を実践してきました。

大正4年に産声をあげた「桂倶楽部」は、大正・昭和・平成と三世代存続し、平成27年7月18日、「創部100周年」に第37回都市対抗野球大会開会式(東京ドーム)において100年を超えた伝統チームとして日本野球連盟より特別表彰されました。



■桂倶楽部80周年記念大会(楽山球場) 『対函館大洋倶楽部』